

津島地区排水対策の現況

生活排水部門長 工学部 名合宏之

津島地区の排水基幹整備工事が昭和56年12月に着工されて以来約2年が経過した。本年3月には東西道路の北側地区および教養部地区の工事を終え、事務局・農学部・薬学部地区の工事も本年度中には完了しようとしている。本工事は御存知のように水質総量規制の適用に対応してすすめられているものであるが、大学としては排水基幹整備をすすめるにあたり、当初、公害防止対策委員会に排水対策専門委員会を設置し、そこでこの地区全体の排水システムのあるべき姿について検討が重ねられ、排水系統と維持管理体制という排水システムのハード面とソフト面についての基本方針が示された。

排水系統については、実験洗浄排水系統と生活排水系統を分離すること、従来100カ所以上あった大学からの排水口を各地区ごとにまとめ3カ所にすることおよび水質・水量の監視システムを確立することを主な内容とするものである。大学の排水整備としてはいままでにない大がかりなものとなったが、工事は年次計画に沿って着実に進行し、完工も間近となっている。

一方、このような新しい大規模な施設を誰がどのようにして維持・管理していくのかという点については、人的・経費的な問題もあり、事はなかなか円滑には運ばなかった。しかし、学長はじめ各位の御尽力により、当センターが発足し、水質環境管理規程が制定され、さらに水質管理員制度が具体化されるに至り、この問題に対する体制も一応整ったといつてよい。

現在、ハード・ソフト両面の整備が一段落し、排水システムもようやく機能しだしたが、何分にもまだ日が浅いため、施設面における初期事後的なトラブル、利用方法の不適正に起因する施設の機能障害などが相つぎ、その対応に慌てることも少くない。また、約1年間水質監視を行ってきた結果では、現在までのところ幸い公共水域への放流水質には異常は出ていないが、各部局からの排水水質には基準値をかなり上回る値も検出されている。これもまだ利用者の方々に新しい排水システムを正確に認識していただけていないために起るトラブルかと思われる。このようなトラブルを防止・軽減するため、センターでは施設の改善に努める一方で、排水システムに対する認識を深めていただき、その適正な利用方法を周知していただくための広報活動や理系学生に対する環境教育を実施してきている。今回配布した「廃液・排水処理指針」もこのような目的で行われたものであるが、利用者の皆様にはこれを参考にして排水施設の適正な利用に心がけていただきたい。

まだ歩き始めたばかりの排水システムであるため、各種のトラブルに対して手さぐりの状態で対応しているのが現状であり、ために水質管理員の方々、利用者の方々にいろいろ御迷惑をおかけすることも少くない。大学からの排水は一般の工場からの排水とは異なりきわめて多種多様であり、

処理方式についても今後研究していかなければならない数多くの問題をかかえている。当センターとしても大学の排水の特殊性に対応したより適切な排水システムの確立を目指して努力しているが皆様方の一層の御協力をお願いする次第である。